

福岡市保健福祉審議会 地域保健福祉専門分科会
(平成 23 年度第 4 回)
議事録

1 日 時

平成 23 年 11 月 21 日(月) 午前 10 時～午後 0 時

2 場 所

天神ビル 11 階 10 号会議室

3 出 席 者

別紙のとおり

4 議 事

(1) 開会

(2) 審議

福岡市保健福祉総合計画（答申案）等について

(3) 閉会

5 議事概要

(1) 開会

地域保健福祉専門分科会開催に当たり、事務局より、本専門分科会委員 13 名中 10 名が出席で、定足数である過半数に達しているため、福岡市保健福祉審議会条例第 7 条第 9 項の規定に基づき本日の会議は成立するとの報告があった。

また、福岡市情報公開条例に基づき、本専門分科会が原則公開である旨の報告があった。

(2) 審議

審議に先立ち、事務局より、本日の専門分科会資料として、別紙レジメ、資料 1～3、参考資料 1～2 について、不備がないか確認を行った。

確認後、会長の進行により、議案に基づく審議に入った。

会 長：では、議案に基づく審議に入る。はじめにスケジュールと本日の審議内容について、事務局より説明されたい。

事務局：(別紙レジメに沿って、今後のスケジュール、本日の審議内容について説明。)

会 長：本日は、市民意見募集等を踏まえ、計画書案に修正が加えられているため、まずは修正内容についての審議を行う。続いて、修正内容を反映した計画書案について、本日委員の意見を取りまとめることができた場合には、諮問に対する福岡市保健福祉審議会の答申として決定したいと考えている。

また、答申として決定した際は、市長へ提出する答申文案について事務局より説

明をいただくこととする。

では、レジメに基づき、資料について、事務局より説明されたい。

事務局：(資料 1, 2, 参考資料 2 より計画案修正内容を説明) なお、パブリック・コメント手続前に福岡市議会常任委員会へ報告した際、横文字について用語解説加えるなど配慮すること、今後行うモニタリング指標調査にあたっては定性的な設問においてもできる限り具体的な設問を検討されたいとのこと、自助・共助・公助の視点については、自助や自立が困難な社会状況にあることに配慮し、市民が安心できる計画づくりをお願いしたいなどの意見、要望があった。

会 長：委員のご意見を伺いたい。

委 員：6 ページの「母子」とは、母子保健かまたは母子福祉か、参考までに伺いたい。
また、ハード・ソフトは、本計画の内容からみても案①がよいと思われる。

事務局：ここでの「母子」とは、母子福祉の趣旨でのご意見であると認識している。母子保健も母子福祉(児童福祉)も保健福祉分野の一つであるが、既に子ども総合計画が策定されているため、本計画では、子ども総合計画と連携していくという方向で整理をさせていただいている。具体的には、本計画 6 ページで、子ども総合計画が特に連携の強い分野と分かるよう図を修正した。

委 員：51 ページの脚注は、「年齢や性別、国籍、障がいの有無」ということに障壁があることを認識できるよう追記することで、より具体的にユニバーサルデザインについてイメージできるのではないと思う。
また、私見だが、4 ページの「家庭のあり方が変化し」は、「家族のあり方が変化し」が妥当ではないか。

事務局：「年齢や性別、国籍、障がいの有無」については、51 ページは本文中に記載しているので、脚注から除いている。4 ページはご指摘のとおり、柔軟に対応する。

委 員：51 ページの「ユニバーサルなまちづくり」の脚注については、「年齢や性別、国籍、障がいの有無に関わらず」という本文の内容を脚注へ移動させた方が読みやすいのではないか。
また、本文中には「ユニバーサルなまちづくり」、「ユニバーサルデザイン」といった表現があり、どちらかに統一してはどうか。

委 員：“ユニバーサルな”というのは、ユニバーサルが形容詞なので、内容的にも捉えにくく、第 13 章の見出しとして、「ユニバーサルなまちづくり」となっているため、違和感がある。わかりやすい表現した方が良いのではないか。

事務局：分かりくい表現ではあるが、脚注にもあるように、現在、市政運営の柱の一つとしており、福岡市ではキャッチフレーズの一つとしても、「ユニバーサルなまちづくり」という表現を用いている。

委 員：福岡市のキャッチフレーズとして「ユニバーサルなまちづくり」という言葉が用いられているのであれば、活かした方が良いと思う。その上で、先程から意見が出ている脚注の表現について、検討してはどうか。

委員：「ユニバーサル」に「な」をつけたような、福岡市でつくった造語と分からない造語が、章の見出しにあるのはいかがかと思う。

会長：「ユニバーサルな」という表現に対して、意味を損なわないような対案があれば、委員のご意見を伺いたい。

これまでの委員からのご意見では、「年齢や性別、国籍、障がいの有無」を脚注に入れた方がよいという意見が出ているが、それには意見はないか。

委員：他の脚注では用語を端的に説明しているのに対して、「ユニバーサルな」の脚注は、まちづくりの基本方針の説明となっているので、「ユニバーサル」という用語の説明として「年齢や性別、国籍、障がいの有無」という内容を脚注に加える必要があるのではないかと思う。この「ユニバーサルな」という言葉に説明が必要であれば、「ユニバーサルシティ福岡が目指すもの」や「ユニバーサルシティ福岡のこれから」というようなタイトルの付け方も考えられるのではないか。

会長：脚注における説明の仕方についてのご意見ということによろしいか。

委員：そうである。

委員：「ユニバーサルな」という言葉を説明するのであれば、造語ということ本文中で説明しないと誰もが分かるものにならないと思う。

委員：先程、この脚注はユニバーサルデザインそのものの説明ではないため、「年齢や性別、国籍、障がいの有無」という具体的な内容を加えたほうがよいという意見を述べたが、事務局の説明によると、福岡市が「ユニバーサルなまちづくり」を大きく打ち出していることの説明であるとのことなので、やはり脚注の内容はこれで妥当と思う。章のタイトルとしても、キャッチフレーズであるなら、現状のままでよいと思う。

委員：第13章のタイトルは世間に通用しないと思う。福岡市の標語であるのなら、引用符や鍵かっこを用いて、「“ユニバーサルなまちづくり”の実現」等と表現し、脚注でその言葉を福岡市の標語として用いていることを説明するとともに、「ユニバーサルなまちづくり」の具体的な内容について本文で説明してはどうか。現在の脚注案は、「ユニバーサルなまちづくり」という言葉の説明ととらえられて分かりにくくなっているため、標語と認識できる表現とするか、別の表現に改めた方がよいと思う。

委員：全体的な構成や表現については賛成である。「ユニバーサルなまちづくり」については、他の委員の意見にもあったように形容詞として造語であること、また、市議会から、横文字、カタカナについて分かりやすくという意見があったことを鑑みると、51ページの4行目終わりにある、「ユニバーサルシティ福岡」という言葉を用い、「ユニバーサルシティ福岡の実現をめざして」とする案もあるのではないか。

また、参考資料2案①の1行目の「高齢者や障がいのある人などすべての人」に違和感がある。「高齢者や障がいのある人をはじめ」、あるいは「高齢者や障がいのある人を含む」としてはどうか。

また、56 ページにある「校区」は小学校区のことを意味していると思われるが、校区には、中学校区もある。「校区」という場合、常に小学校区を意味するのか、また、そのような解釈は全国的に通用するか伺いたい。

事務局：56 ページの「校区」については、ご指摘のとおり小学校区を指している。市民に計画を見ていただくことを考えると、この「校区」が小学校区であることについて、市民に分かるよう各論で明記したい。

なお、「校区」の指す範囲は、全国的に小学校区で統一されているわけではない。

会 長：現在、第 13 章のタイトルとその脚注の内容、参考資料 2 の事務局案という 2 つの点について様々な意見が挙がっているところであるが、まずは参考資料 2 の案①と案②について協議し、結論を出した後、第 13 章に移ることとしたい。

委 員：参考資料 2 については案①に賛成である。案②は「除去」が強調されているが、まちづくりの理念は、福岡市の良いところを伸ばしていくという視点も当然ある。案②はネガティブな部分にしか着目していないので、①の方がよい。

委 員：案①がよいと思うが、先程、委員からご指摘があったように、「高齢者や障がいのある人をはじめ」としていただければと思う。

各委員：案①で賛成である。

会 長：現在はバリアフリーからソーシャルインクルージョンへ、より積極的に、高齢の方も障がいのある方も全ての人が暮らし続けることができる社会づくりをしていくというように、地域福祉の理念が広がっているため、案①がより適切と考える。全員一致で案①を採用したい。

また、委員からご指摘があったように、「高齢者や障がいのある人をはじめ」と修正したい。

次に第 13 章の「ユニバーサルなまちづくり」について、まずタイトルをどうするかという点、それと関連して脚注をどうするかという点について、委員のご意見をいただきたい。

委 員：正しい日本語であれば、おそらく「ユニバーサルな」という言葉は使わないし、専門的に勉強されている方にとっては間違った用語としてとられられてしまうかもしれないが、それでも造語はあるものなので、基本的には「ユニバーサルな」という言葉自体に抵抗感はない。

ただ、章のタイトルに脚注がついていることが、如何なものかと思う。

パブリック・コメントでは、「タイトル自体を変えた方が分かりやすいのでは」という意見もあるが、事務局からの説明にあったように、福岡市のキャッチフレーズでもあるので、そのまま「ユニバーサルなまちづくり」とするか、委員の意見にあった「ユニバーサルシティ福岡」とするか、検討する必要があるだろう。

委 員：「ユニバーサルシティ福岡」とするか「ユニバーサルシティ福岡」とするかどちらかで決定してよいと思うが、カッコで括るか、引用符で括るかして、造語であることを分かるようにすることが必要だ。また、脚注による説明では無理があると思われるので、福岡市が定義している造語であること、推進している内容を本文

中で説明してほしい。

会 長：「ユニバーサルシティ福岡の実現をめざして」というタイトルでどうかというご意見があったが、どうか。

委 員：「ユニバーサルシティ福岡の実現をめざして」は、良い表題ではあるが、タイトルがこの章の枠を越えてしまうのかなと思う。

委 員：高齢者にとって横文字はわかりにくい。バリアフリーという言葉も分からない方が多いので、日本語での表現はどうか。

委 員：ユニバーサルデザインという用語自体は、1980年代後半にアメリカで作られた言葉で、現在は一歩進んだ考え方で用いられている。こうした新しい言葉を新たな計画に取り入れるのは、新鮮なイメージも感じられる。

福岡市の方針として、現在「ユニバーサルなまちづくり」を進めているのであれば、「“ユニバーサルなまちづくり”の推進」とし、ご提案のあったように、本文でそのことを説明してはどうか。

また、「ユニバーサルシティ福岡」は、本計画だけの話ではないような気がする。横文字を日本語にすることについては、なかなか難しいと感じる。

会 長：様々な意見が挙がったが、事務局の意見はいかがか。

事務局：市民の方々に理解をしていただくことが第一であると考えている。一方で、「ユニバーサルなまちづくり」は福岡市として推進していることでもある。

そこで、それぞれの意見を勘案しタイトルを「“ユニバーサルなまちづくり”の推進」とし、現在脚注に記載している市の方針についても本文中に入れて説明するように修正案を考えている。

委 員：福岡市が進めている「ユニバーサルなまちづくり」という言葉自体を広めていくということも含めて必要ではないかと思う。

会 長：事務局案は、これまでの委員の意見を反映された提案であると思われるが如何か。

各委員：（了承）

会 長：では、この件についてはこれでよし、脚注は事務局で検討していただきたい。そのほかの箇所について、委員の意見はあるか。

委 員：44 ページの修正箇所について、「要介護者をケアマネジメントするケアマネジャーを包括的・継続的に支援する地域包括支援センター」となっているが、ケアマネジャーだけが特出しされているような表現であることと、地域包括支援センターの包括的・継続的に支援する対象がケアマネジャーにかかっている点に違和感がある。

会 長：今の指摘は、包括的・継続的に支援する対象がケアマネジャーにかかっており、誤解されるため、文章の修正が必要であるということか。

委 員：加えて、「要介護者をケアマネジメントする」という表現については、修正前の文言の方がポピュラーであると思う。

事務局：「修正前の表現では、どこが何をするかということが分かりにくい」とのご意見を踏まえ、このような文章へ修正したが、ご指摘があったように、もう少し整理したい。

委員：地域包括支援センターと医療機関等の関係者が連携するとして、誰が連携するのか、医療機関等とはどこが入るのか等、どこが連携して何をするか分かりにくいので、もう少し明確にして欲しい。

会長：事務局は、以上について留意し、修正をお願いしたい。他に参考資料1で触れていない部分についても、委員のご意見やご質問があれば、お願いしたい。
また、私としては、この審議プロセスも市民に伝えていくことが必要でないかと思った。伝えていくことも委員としての役割ではないかと感じる。

委員：45 ページをみると、要介護者の包括的支援だけでなく、「要介護者を支援するケアマネジャーの後方支援」と表現されているので、支援が要介護者のみと結論付けて良いのか、どのような表現にするのか気になる。事務局は、整合性のある修正をしていただきたい。

委員：23 ページの「(5) 多様化する新たな課題への対応」で、「家族構成の変化」の後に、「格差の拡大」を入れていただきたい。また、その結果として、「孤立死・虐待・認知症・ひきこもりなどの深刻な社会問題」と文章が続いているが、「認知症」は病気であり「社会問題」と結びつかないように思えるので、削除してもよいのではないかと思う。また昨今の深刻な社会問題として「貧困」を入れてはどうか。

委員：単なる「格差の拡大」ではなく、「経済的な格差の拡大」とする方が、よりわかりやすい表現ではないか。

委員：「認知症」を削除することは反対である。高齢者の長寿化による様々な社会問題が現れている中、「認知症」によって社会問題に発展することもあると考えられるので、削除する必要はないのではないか。

委員：人口減少時代の到来、少子高齢化の進展といった様々な現象から、各課題が提起されているので、「認知症」は入っていて良いと思うし、また、「貧困」についても入っていて良いのではないか。前後の整合性があれば良い。

委員：「認知症」を病気であるからという理由で削除するのであれば、ひきこもりも虐待もそのような領域に該当する。また、福岡市の認知症対策は、認知症を家族や周囲のサポートを含めて社会的な課題であると捉えて推進している意思が感じられるので、むしろここに「認知症」が入っていることで、福岡市として取り組む意思を表明することにもなるので、入れておくべきと思う。

委員：読んでいる際に、「認知症」が入っていることに違和感があったが、各委員からのご指摘を聞いて、「認知症」が入っていて良いと思った。

会長：「経済的格差」について、文言を入れない方がいいという意見はあるか。

委員：本計画はあくまで保健福祉の計画なので、「貧困」はあえて入れる必要があるのか、とは思う。

委員：43 ページでは、生活保護の適正実施といった内容が入っているので、「貧困」を入れても全体の整合性は確保できていると思う。

委員：「貧困」については、貧困に陥る前にどう予防するかというものの福祉施策の一分野であり、このような支援として、社会福祉協議会による生活福祉資金の貸付や生活保護があり、これに携わるのが民生委員である。このような点から「貧困」は医療や養育にも関わるため、あった方が良いと思われる。

会長：「貧困」を追記することについて、積極的な反対意見はないようであるため、加える方向で調整をお願いしたい。

事務局：（了解）

委員：「貧困」から発生する問題について、市で対応できること、市で対応できないことがあるので、趣旨は分かるが表現が難しいのではないかと感じる。

委員：この箇所では、多様化する新たな課題への対応について必要性を記述しており、様々な社会現象と対応すべき課題が出現する状況下で市としてどう対応していくかは、国、県に要望したり、市民が現状を認識した上で助け合うといったことを含めて、検討していただければと思う。

会長：では、それぞれの委員の意見を踏まえて、修正するというところでよろしいか。

各委員：（了承）

会長：多少の修正を行う必要はあるが、本日の意見を反映した計画を審議会の答申としてよろしいか。

各委員：（異議なし）

会長：資料3について、事務局の説明をお願いしたい。

事務局：（資料3について説明）

会長：委員のご意見を伺いたい。

各委員：（異議なし）

委員：計画の決定をみた暁には、どのように周知徹底をはかる予定か。

事務局：計画決定後、計画書を印刷し、ホームページへ公開、市民への提供、市議会への提出を考えている。

委員：関係機関や団体、各公民館、自治協議会への配布は可能か。

事務局：配付するよう検討したい。

会長：事務連絡があればお願いしたい。

事務局：（答申スケジュール説明、挨拶）

（３）閉会

【別紙】出席者一覧

1 保健福祉審議会委員

氏 名	専 門 分 野 等
岩 城 和 代	学識経験者（法曹界）
石 田 重 森	学識経験者（社会保障）
大 谷 善 博	学識経験者（公民館）
川 口 浩	市議会議員
櫻 井 千恵美	学識経験者（男女共同参画）
黨 實 雄	社会福祉事業従事者（民生委員）
鳩 野 洋 子	学識経験者（地域看護学）
松 崎 百合子	学識経験者（男女共同参画）
松 田 潤 嗣	社会福祉事業従事者（地域福祉）
矢 田 信 浩	学識経験者（雇用関係）

2 福岡市保健福祉局

氏 名	役 職
井 崎 進	保健福祉局長
恒 吉 香保子	保健福祉局理事
峯 田 太 史	総務部長
藤 川 保 正	総務課長
福 永 たつ子	計画課長
下 川 祥 二	保健医療部長
平 坂 誠 二	地域医療課長
三 浦 雅 子	健康福祉のまちづくり部長
高 木 三 郎	地域福祉課長
佐 藤 文 子	地域保健課長
辻 野 初 子	地域保健課（歯科・栄養指導担当）課長
榎 本 精 治	高齢者・障がい者部長
矢 野 俊 治	高齢者施策推進課長
和 佐 優	障がい者在宅支援課長
倉 谷 裕 司	生活衛生部長
戸 越 剛	生活衛生課長